

2023 年度

京都教育大学附属高等学校

自己評価実施計画書

## 1. 本校の基本情報

(1) 学校名	京都教育大学附属高等学校
(2) 所在地	京都市伏見区深草越後屋敷町1 1 1
(3) 学級数等	1 2 学級(3 学年 4 学級) 収容定員 4 8 0 人(1 学級 4 0 人)
(4) 児童生徒数	4 4 0 人 (男子 2 1 7 人・女子 2 2 3 人)
(5) 教職員数	校長(併任) 1、 副校長 1、 主幹教諭 1、 教諭 2 7 (うち任期付教諭 4)、 養護教諭 1、 非常勤講師 1 2、 ALT 1、 事務職員 3 (専任 1、事務補佐員 2)、非常勤用務員 1、 教務補佐員 3

## 2. 本校の教育目標

穏やかな校風と自主自律の伝統のもと、自由な発想と創造性をもって未来を切り拓くことのできる生徒の育成

## 3. 京都教育大学附属学校園の目的

教育の実験、実証並びに実習の機関として、本学に附属学校（幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校）を置く。（本学学則第5 6 条）

本学附属学校は、児童、生徒又は幼児に対して、学校教育法に定めるところにより、教育又は保育を行なうとともに、本学における児童、生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究に協力し、本学の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。（本学附属学校規程第2 条）

## 4. 本校の学校教育計画（年度重点目標）

- (1) 教科間連携を強化した、生徒の総合的な学力向上につながる探究型授業の確立
- (2) 生徒一人ひとりの進路実現に向けた計画的な進路指導体制の確立
- (3) 自らの意思で社会生活に適応できる、自律的で高い人権意識を持った生徒の育成
- (4) 現代の教育課題に則した教育研究の成果の還元と新たな開発
- (5) 学校の教育活動の情報発信の効率化
- (6) 教育環境の整備と充実

## 5. 附属学校園の機能向上に関する取組

- (1) 教育研究活動の成果を公表する。
- (2) 大学と附属学校園とが連携した研究を実施する。
- (3) 総合教育臨床センター学びサポート室と連携する。
- (4) 業務改善及び教職員の働き方に関する取組を推進する。

## 6. 本校の特色

本校は創立当時から、自主自律の精神を重んじ、高い知性・健康な身体・豊かな情操の調和した人間形成に努め、生徒の能力・適性・進路などに応じた教育を進めています。

理系文系を問わず探究活動を通して、教科の学習を基盤とした確かな学力に基づき、他者と協働して問題解決をはかることができる人材の育成を目指し、教育活動に取り組んでいます。近年では、文部科学省より各種研究指定を受けて、本学との連携を軸に、他の大学や研究機関、他国の高校生との連携もはかりながら、生徒の主体的、自律的参加を促す様々な課題研究プログラムを開発してきました。

これからの社会に求められる「問題解決力」と「人間力」を併せ持つ人材の育成を目指して、今までのSSHにおいて蓄積したノウハウを“リベラルアーツ（＝物事を多面的に捉え、課題解決に活かすための基礎的で多様な知識）”の観点で整理し、その修得を活動の中心においた探究型課外活動「京教リベラルアーツアクティビティ（京教 Liberal Arts Activity：京教LA<sup>2</sup>）」として展開しています。生徒一人ひとりが本校の伝統である自主自律のもと、人文・社会・自然科学分野に深い関心と幅広い視点を持ち、総合的な発想力や個性を発揮することで、知的な感性を磨くことを目指しています。また、京教LA<sup>2</sup>と総合的な探究の時間との有機的な接続・連携を視野に入れて取り組んでいきます。

# 2023 年度 学校評価 年間計画

学校名: 京都教育大学附属高等学校

時期	評価の検討と実施等	参考 2022 年度評価分
2023 年 3月		2022 年度第2回学校評議員会議実施 2022 年度学校自己評価実施、学校 評価結果及び改善策とりまとめ
4月	2023 年度学校運営方針、重点教育目標等策定 2023 年度教育目標と具体的な取組策定並びに保護者・ 生徒への周知 <b>2023 年度学校評価計画を大学へ報告</b>	2022 年度学校評価結果及び改善策 概要等を保護者へ周知
5月	<b>2023 年度学校評価計画の学校 HP 掲載</b>	<b>2022 年度学校評価結果及び改善策 を大学へ報告</b>
6月	学校評議員候補者の確定	<b>2022 年度学校評価結果の学校 HP 掲 載</b>
7月		
8月		
9月		
10月	第1回学校評議員会	
11月		
12月	3年生保護者・生徒アンケート実施	
2024 年 1月	1・2年生保護者・生徒アンケート、教員アンケート実施	
2月	研究発表会参加者アンケート実施 2023 年度教育目標と具体的な取組自己評価作成	
3月	第2回学校評議員会実施 2023 年度学校自己評価実施、学校評価結果及び改善 策とりまとめ	
4月	2023 年度学校評価結果及び改善策概要等を保護者へ 周知	
5月	<b>2023 年度学校評価結果及び改善策を大学へ報告</b>	
6月	<b>2023 年度学校評価結果の学校 HP 掲載</b>	

参考

2024 年 4 月

2024 年度学校運営方針、重点教育目標等策定  
**2024 年度学校評価計画を大学へ報告**

令和5年度 京都教育大学附属高等学校 学校評価

自己評価	
A	高いレベルで達成できた
B	達成できた
C	一部達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

①教育活動その他の学校運営に関する事項(学校教育法に基づく評価)

本年度の重点目標	具体的な取り組み内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
(1) 教科間連携を強化し、生徒の総合的な学力向上につながる探究型授業の確立	・各教科における基礎・基本の徹底を基盤とし、自らの課題を設定し、問題解決に活用できる総合的な学力を育成する。 ・教科間の有機的なつながりを強化し、思考力・判断力・表現力に加え、読解力の育成を目指した探究型授業を実践し、高大接続改革で求められる学力を定着させる。	*	*	*	*
(2) 生徒一人ひとりの進路実現に向けた計画的な進路指導体制の確立	・学年、分掌の綿密な連携を基盤とした指導体制のもと、個人面談などを通じて個々の生徒に適した進路指導を実践し、生徒一人ひとりの進路実現に向けたきめ細やかな支援を図る。 ・3年間の進路指導計画を明確化し、計画に沿った進路ガイダンス、進路ホームルームなどを通じ、生徒、保護者に対して、適切な進路情報を効果的に発信する。	*	*	*	*
(3) 自らの意思で社会生活に適応できる、自律的で高い人権意識を持った生徒の育成	・教育活動や自主的活動など他者と協働する様々な機会を通して、自律した人間として自己管理ができるとともに、周囲の人間を思いやることのできる高い人権意識を持った生徒の育成に努める。	*	*	*	*
(4) 現代の教育課題に則した教育研究の成果の還元と新たな開発	・今日的な教育課題に則した教育研究を推進し、その成果を地域の学校等に還元することで、研究校としての使命を果たす。 ・京教リベラルアーツアクティビティやグローバル人材育成プログラムを活用し、本学との連携強化を図り、教科融合型の探究活動を軸とした授業開発を推進する。	*	*	*	*
(5) 学校の教育活動の情報発信の効率化	・本校ホームページの改善を実施し、提供する情報内容の充実を図り、本校の教育活動をより広く効果的に発信する。 ・教員の共通理解のもと、中学生や教育関係者へ、本校の教育活動の特徴を具体的かつ積極的に発信できる広報活動を展開する。	*	*	*	*
(6) 教育環境の整備と充実	・生徒および教職員の心身の健康、安全のため、定期的な教育環境の点検を実施する。 ・環境整備の必要な個所を精査し、効果的かつ効率的に整備を進めていく。	*	*	*	*

(\* 欄は年度末に記入)

②附属学校園の機能向上に関する事項

本年度の重点目標	具体的な取り組み内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
(1) 教育研究活動の成果を公表する。	・本学教育創生リージョナルセンター機構との共催、京都府・京都市教育委員会の後援により、研究発表会を開催する。 ・教育委員会や学校関係者等の学校訪問を積極的に受け入れ、本校の先進的な取組を積極的に発信する。 ・研究成果を地域の教育に還元するための教員研修プログラムを検討する。	*	*	*	*
(2) 大学と附属学校園とが連携した研究を実施する。	・大学の「グローバル人材育成プログラム」事業において本校で取り組んだ成果を積極的に授業で活用する。 ・京教リベラルアーツアクティビティにおいて、本学学生の教員養成の場として活用を図るとともに、大学教員と連携を深め研究を進める。	*	*	*	*
(3) 総合教育臨床センター学びサポート室と連携する。	・大学の学びサポート室と連携し、特別な配慮を要する生徒への支援を行い、生徒の希望進路実現に向けた教育を実施する。	*	*	*	*
(4) 業務改善及び教職員の働き方に関する取組を推進する。	・学校業務の現状を分析し、分掌組織の適正化、会議の精選およびITツールの活用等による業務の効率化を図り、働き方改革を推進する。	*	*	*	*